

## 香取遺産

① 姫宮大神正面  
② 姫宮大神祠碑



## 姫宮大神祠碑 小見川火災の記録

vol.180

小見川の市街地を流れる黒部川の西岸、新田橋からほど近くの<sup>あめのつとめのこと</sup>新田地区に姫宮大神が鎮座しています。祭神は天鈿女命で、創建は不詳ですが、言い伝えでは寛永年中に小見川村の他地区より遷座されたもので、その場所に姫宮古跡と称する地名が残ると言われます。明治42年には大宮大神を合祀しています。

その境内に火災にまつわる記載のある石碑があります。「姫宮大神祠碑」と題された石碑で、明治25年1月に建立されたものです。碑文は久保地区で無逸塾を開いた渡邊存軒の撰文によるもので、そこには「罹祝融之災悉属灰燼、實明治十三年十二月二十五日也」と刻まれています。祝融之災とは火事のことです。明治13年12月25日に火事に遭い跡形もなくなってしまった、といった意味になります。

小見川の中心市街地は、江戸時代には小見川藩の城下として、また黒部川河口の河港商業町として発展し、黒部川兩岸や通りなどを中心に町並みを形成してきました。現在も、その面影を残す商家の建物などが残り、7月の祇園祭で屋台が曳き廻されるなど、そのにぎわいの一端を見せていますが、一方で過去には大きな火災にも見舞われてきました。正確な時期は不明ですが、新田地区では明治13年12月、あるいは翌1月頃大火が発生したようです。156戸が被害を受け、その火は黒部川対岸の小学校まで及んだとされます。あるいはこの時の火災により姫宮大神は焼失したのでしょうか。

石碑によれば、その後明治24年に、阿玉川の<sup>せんごうし</sup>大工棟梁大八木五郎左衛門の手により姫宮大神は再建され、9月1日に遷宮式が行われています。